

鹿児島県の地質44

屋久島・口永良部島の地質

地質担当 多久島 徹

学ぼう郷土の自然

「博物館がやってきた！in屋久島」

鹿児島県立博物館は、毎年県内各地で「移動博物館」を開催し、郷土（地元）の自然や県内の天然記念物などを紹介しています。展示物は剥製や標本など、多いときで4,000点を越えることもあります。平成28年度の移動博物館は、11月23日～27日の5日間、世界自然遺産の島「屋久島」で開催します。

屋久島・口永良部島・種子島の地形

大隅諸島に属する屋久島・口永良部島と種子島。隣り合うこれらの島の距離は、屋久島と口永良部島は約12km、屋久島と種子島は約20kmしか離れていません。しかし、地形はそれぞれ特徴的で大きく異なります。屋久島は急峻な山岳地形ですが、口永良部島は火山島、種子島は平坦な島です。これらの違いは島の成り立ちが大きく関係しています。

屋久島の成り立ち

屋久島の基盤をなす地層は、今から約4,000万年前、海溝に堆積した砂や泥などが、プレートの沈み込みによって陸側へ付加されたもの（付加体）で、日向層群（熊毛層群）とい



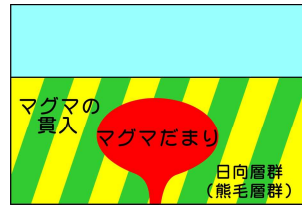
画像：Google earth



およそ4,000万年前

ます。この地層は引きちぎられたり、押しつけられたりして、複雑な地質構造になっています。種子島の基盤も同じ地層です。

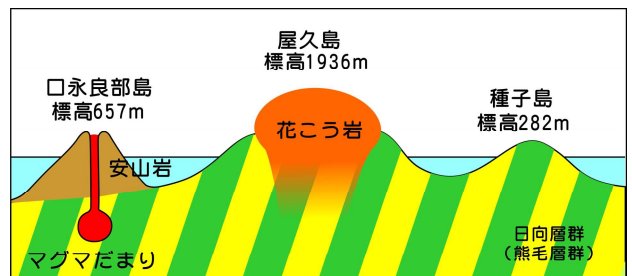
その後、約1,550万年前に屋久島ができる地域の地下深くにマグマが貫入し、マグマだまりを形成しました。そして、ゆっくりと冷えて固まり、巨大な花こう岩になりました。これが上昇し、日向層群を押し上げて、現在の屋久島の原形ができたのです。花こう岩をおおっていた日向層群は侵食され、花こう岩が地表に現れました。花こう岩の上昇が侵食よりも速いスピードであったため、高い山々ができたのです。



およそ1,550万年前



花こう岩の上昇



現在

活火山の島「口永良部島」

口永良部島は、ひょうたんのような形をした標高657mの火山の島です。50万年前から現在まで、10個の火山が順番に溶岩やテフラ（火山灰や軽石など）を噴出してつくられました。溶岩のほとんどは、桜島をはじめ、県内でも多くの地域でみられる安山岩です。

最も新しい火山は新岳で、現在も活動は続いています。2015年5月29日の噴火では、噴煙が9,000mに達し、火砕流が向江浜まで押し寄せました。しかし、島民の迅速な避難により、人的被害はほとんどありませんでした。島では事前に避難訓練を実施しており、防災訓練の大切さを改めて教えてくれました。

口永良部島は噴火警戒レベル5に伴い、全島避難となりましたが、現在では解除されています。



火砕流の被害 撮影：二宮忠信